

「須坂市小中学校におけるこれからの水泳学習に関する方針（案）」
 へのご意見と須坂市教育委員会の考え方・対応

- 1 意見募集期間 2024年6月1日～2024年6月30日
- 2 意見募集内容 須坂市小中学校におけるこれからの水泳学習に関する方針（案）に対する意見
- 3 意見提出状況 63件（17個人）

須坂市教育委員会学校教育課

1. これからの水泳学習の姿

学びをつなぎ、のばす水泳学習

番号	意見	考え方・対応
1	無し	—

2. 水泳学習と水泳指導について

（1）水泳授業

①アレルギー疾患を持つ児童生徒等への配慮

紫外線等のアレルギー性疾患を持つ児童生徒等へ配慮し、皮膚が露出しない水着以外の衣服の着用や、スイミングゴーグルの着用を奨励します。

番号	意見	考え方・対応
1	水着以外の衣類を着用する生徒、ゴーグル着用生徒の人数、比率の推移を、明らかにしてほしい。	該当する児童生徒の人数調査はしていませんので、推移は分かりません。

②熱中症対策

プールサイドが高温になりがちなことや、水中においても発汗・脱水があることに留意し、他の体育活動時と同様に熱中症予防の観点を持って必要な対策をすることとします。

番号	意見	考え方・対応
1	必要な対策とは、具体的にどのような対策になりますか？	「須坂市立小・中・支援学校における熱中症対策ガイドライン」に基づき、水温や気温等の状況に応じた対策を行いますので、その旨を方針に加えたいと思います。

③水の事故防止のための学習

水の事故防止のための学習については、小学校高学年以上を中心として履修していくこととします。

番号	意見	考え方・対応
1	着衣泳の実態（各校の回数、参加生徒数、比率）を明らかにしてほしい。	2023年度の着衣泳の実施状況は16校中5校でした。着衣泳によりプールの水が汚れますので、最後の水泳授業で行っています。参加生徒数・比率の調査はしていません。着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については、着衣泳だけでなく、ペットボトルなどの身近な物を使って浮力を得る体験など、様々な方法がありますので、施設管理者と相談して取り扱うことを方針に加えたと思います。
2	水の事故防止のための学習について、着衣泳などがありますか？あるのであれば何時間を予定しておりますでしょうか？	

水泳授業全体について

番号	意見	考え方・対応
1	小学生高学年くらいから自分の容姿を気にしたり異性の目が気になったりして、水着になることそのものが苦痛とを感じる場合が少なくありません。 水泳は選択科目のような感じで、他のスポーツとどっちをやるか選べる（もちろんどっちを選んでも成績評価は公平）ようになったら良いと願います。	須坂市では国が定めた学習指導要領に基づいて水泳授業を行っています。小学校では体育の中の「水遊び」「水泳運動」、中学校では保健体育の中の「水泳」として指導することとなっています。 中学3年生については、水泳を選択して履修できるとしていますが、他の学年では、適切な水泳場の確保が困難な場合を除き、必修となっています。 男女別の授業については、性の多様化への対応、授業編成の複雑化等の課題がありますので、今回の方針で方向性を示すのは難しいと考えます。
2	必要性を考え選択科目にするのはどうでしょう。皮膚疾患や、容姿などプライバシーについて子供から毎年悩みを聞かされます。 社会の傾向、学校の考えかた、こども達の発達やこどもがもつ情報と発信力が昔とは大きく変わっています。 こども達からの意見を優先したうえで、水泳学習の続行ということであれば上記の通り、選択制も検討いただきたいです。	

3	<p>特に中学生、プールの時間少なくなったが、成長期のため毎年水着を新調しなければならず、負担。プールの維持費や老朽化で、これからの時代に必要だろうか？疑問。そもそも、長野県、特に北信地域は高校までプールありとかありえない。ジェンダーの問題や感染症の問題、昔とは違う早熟な成長期など、子供には相当ストレスと感じる。必要性を感じない。</p>	<p>須坂市では国が定めた学習指導要領に基づいて水泳授業を行っています。小学校では体育の中の「水遊び」「水泳運動」、中学校では保健体育の中の「水泳」として指導することとなっています。 中学3年生については、水泳を選択して履修できるとしていますが、他の学年では、適切な水泳場の確保が困難な場合を除き、必修となっています。 男女別の授業については、性の多様化への対応、授業編成の複雑化等の課題がありますので、今回の方針で方向性を示すのは難しいと考えます。</p>
4	<p>中学生のプールですが、異性の目が気になり参加を躊躇するという話を聞きます。男女別で行ってもらえると、もっと授業を受ける子が多くなるのではと思います。</p>	
5	<p>泳ぎに差があるなら夏休みのプール解放をして欲しい。希望生徒のみでも。</p>	<p>小中学校の体育の授業時数は100授業時数前後ですが、その1割の10授業時数を水泳授業に充てています。全国的にも10授業時数が一番多く、ほとんどの学校が8授業時数から12授業時数で水泳授業を行っています。夏休みのプール開放については、プール監視をお願いしていた保護者の負担軽減や、気温が高い時間帯での児童の行き帰りのリスクを避けるために、市内全ての学校で中止となっています。</p>
6	<p>水泳のある期間が短すぎる。 暑い日が多いので夏休み明けも水泳の時間をとってほしい。</p>	
7	<p>プール参観をして保護者も把握するべきだと思う。</p>	<p>学校に相談いただければ、保護者の参観は可能だと考えています。</p>
8	<p>ぜひ子ども達の事を一番に考え、これからもプールの授業をしていただきたいと思います。</p>	<p>須坂市では、義務教育課程における水泳指導は大切であると考え、引き続き学習指導要領に基づく水泳指導を実施していきたいと考えています。</p>

(2) 水泳指導

①学びの系統性を考慮した水泳学習の展開

《小学校低学年》水につかって歩いたり走ったり、水にもぐったり浮いたりする楽しさに触れます。

《小学校中学年》水に浮いて進んだり呼吸したり、様々な方法で水に潜って浮いたりする楽しさや喜びに触れます。

《小学校高学年》続けて長く泳いだり、浮く距離や浮いている時間を延ばしたり、記録を達成する喜びを味わいます。

《中学校1-2年》クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどから構成され、浮く、呼吸する、進むなどのそれぞれの技能の組合せによって成立している運動で、それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わいます。

《中学校3年》記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐ力を付けます。

※スイミングスクールに通っている児童生徒と通っていない児童生徒では、泳力に差があることから、通っていない児童生徒に配慮した指導を行います。

番号	意見	考え方・対応
1	泳ぎの指導は中学年から入れて欲しい。案は遅い気がする。	中学年では、け伸びや初歩的な泳ぎ、もぐる・浮くことなどの基本的な動きや技能を身に付けるようにして、高学年の学習につなげていきます。初歩的な泳ぎの中で「バタ足泳ぎ」「カエル足泳ぎ」などの、近代泳法の前段階である泳ぎを学び、小学校高学年で学ぶ泳ぎにつなげていくことが求められています。
2	バタフライなど必要とは思えず、競技するならばスイミングスクールへ、授業なら楽しく暑さ対策ぐらいでよいのではないか？	バタフライは、背泳ぎと共に、水の中での安全確保につながる運動と位置付けられています。体が浮いてくる動きに合わせて、両手を動かし、顔をあげて呼吸をした後、再び息を止めて浮いてくるまで姿勢を保つ動きを学びます。 水泳授業は、安全を確保するための学習であることもご理解いただきたいと思います。

番号	意見	考え方・対応
3	水の中で泳がなくても、陸上で手の動かし方や体の使い方等指導し水中への活動へつなげて欲しい。	指導方法については学習指導要領解説に詳しくのっていますので、方針としては、スイミングスクールに通っていない児童生徒に配慮した指導とさせていただきます。
4	コロナ禍中は水泳指導を十分にしてもらえていない学年があります。泳ぎについて差があるならどう指導していくべきか教職員からも意見を聞いて欲しい。	
5	スイミングスクールに通えない子も小学生のうちに泳げるよう指導していただきたいです。水害等の際、泳げないと命にかかわるし、親がプールに連れて行って習得するにはなかなか困難な為、授業で友達と泳げるようになればいいと思います。	
6	泳ぎの差があるとの事。通知表の評価項目の見直しをして欲しい。また評価項目はどうなっているか教えて欲しい。	通知表は、技能だけでなく授業に臨む姿勢や意欲等も評価します。技能については学習指導要領に示された内容が基準になりますので、泳力に差があっても評価項目を見直す必要は無いと考えます。水泳だけでなく、その学期の体育を総合的に見て評価しています。

②水泳インストラクターの活用

教職員の技能差や専門性を補うために、学校の希望に応じて専門性のある水泳インストラクターを活用していきます。水泳インストラクターは次の学年と場面で活用します。

≪小学1年生≫水遊びの導入の場面

≪小学3年生≫水に浮いて進んだり、呼吸したりする学習での導入場面

≪小学5年生≫クロール、平泳ぎの導入の場面

≪中学1年生≫背泳ぎ、バタフライの導入の場面

番号	意見	考え方・対応
1	インストラクター指導について 全学年を対象として入って欲しい。	インストラクターの人員に限界があり、市内小中学校の全学年に導入することは困難です。同様の事情で、年間1授業時間と考えています。 小学校1、3、5年生と中学校1年生としたのは、水泳指導は2年単位で内容が変わるからです。内容が変わった年にインストラクターを導入することとしました。 ただ、中学校の水泳指導は体育専科の教員が行うことから、中学校1年生の水泳授業へのインストラクター派遣については方針から削除したいと思います。
2	昨年度、水泳インストラクターの指導を参観しましたが大変素晴らしかったです。児童も楽しみながら意欲的に泳いでいました。予算との関係があると思いますが、今後インストラクターの方の拡充を期待したいです。	
3	2、4、6年生について活用はないのでしょうか？また1学年につき、何時間を予定しておりますでしょうか？	
4	水泳のインストラクターの方が学校に来てくださるのであればすごくありがたい事です。 お金については多少の負担は仕方ないと思いますが家庭によっては難しく、格差が出て問題だと感じます。各家庭の負担がないようにできるのであればお願いしたいところです。	インストラクターの導入に係る経費は公費で負担します。
5	インストラクターの活用は、学校教育での水泳指導のねらいの達成、一人ひとりの状況に合わせた指導、評価などが難しい。	インストラクターには水泳指導のねらいや児童の様子を予め伝えます。担任教師とのチームティーチングですので評価も問題ありません。
6	インストラクターの活用の実態を明らかにしてほしい。	2023年度は豊丘小学校の水泳授業に導入しました。 2024年度は全小学校と東中学校に導入しました。

3. 小中学校のプールのあり方について

(1) 学校プールの修繕・更新・廃止

既存の学校プールについては、多額の費用がかかる修繕や設備等の更新が必要になった場合、次の基準に当てはめて、修繕・更新・廃止の判断を行うこととします。

【基準】

①自校プール施設を修繕・更新して水泳授業を行う費用（※1）と、民間のプール施設を利用して水泳授業を行う費用（※2）を比較します。

②①の結果、自校プール施設を修繕・更新して水泳授業を行う費用の方が低額な場合は、自校プールを修繕・更新して水泳授業を行うこととします。

③①の結果、民間のプール施設を利用して水泳授業を行った方が低額な場合は、自校プール施設を廃止して、他校のプールあるいは公設や民間のプール施設（以下「校外プール施設」という。）を活用して水泳授業を行うこととします。

※1 今後20年間に必要な維持管理経費から導き出した児童生徒1人・1時限分当たりの単価（設備等の更新期間が約20年のため）

※2 民間のプール施設で水泳授業（2時限分連続）を行う経費から導き出した児童生徒1人・1時限分当たりの単価

番号	意見	考え方・対応
1	これからの学校プールは老朽化したら解体・廃止は残念ですがやむを得ません。須坂市内にはサマーランド・ながでんスイミングスクールのプールありますので、真夏の7月8月はサマーランド週1回から2回、以外はスイミングスクールでの月2回プール授業した方が良いです。	費用対効果論で終始すれば、150人以下の学校のプールは一か所に集約することも選択肢の一つとなりますが、そのような考えはしていません。「可能な限り自校プールを整備したい」との思いの中で、一定の限度を示したのが、今回の方針案の考え方です。
2	費用などのデータを知れた事はとても有意義でした。莫大な費用がかかること、先生達の負担それを踏まえ、他校プールを共有することに賛成です。	
3	最低限でもいいので泳げること、水の学習を必要だと思っています。なので費用を抑えつつ、授業ができ良いと思います。	
4	サマーランドも活用できるのではないのでしょうか？	
5	プールの場所は学校内でなくても、授業で時間をもうけて頂ければいいと思います	
6	年間を通して、民間等の室内プールの活用ができると良いが、コスト面についての検討が今後必要だと思われる。	

7	仁礼小の濾過機は何とか稼働しているが、近い将来動かなくなる可能性が非常に高い。故障しても 交換する部品がないため機械全体の交換になることは業者から聞いている。スイミングスクールとの提携ができるとこの心配がなくなる。	
番号	意見	考え方・対応
8	暑い時期に、天候を見ながら、水泳指導を有効に使うって体育の授業を充実させることが、子ども達の楽しみなのに、それができない。	校外プールでは水泳の楽しさを感じることができないとは考えておりません。実際に校外プールで水泳授業を受けた児童から、楽しかったとの感想をいただいています。また、自校プールであっても、休み時間や学級活動で水遊びや水泳指導を行うことはありません。
9	自校プールなら休み時間や学級活動にも水遊び・水泳指導など工夫して楽しい活動ができる。	
10	自校プールでの授業は極めて重要な教育活動だと思う。学校プールの「廃止」は削除すべきだと思います。	学習指導要領上では「適切な水泳場の確保が困難な場合には水泳の指導を扱わないことができる」としていますが、自校プールのみが適切な水泳場とはしていません。県外の事例では、市内の8つの中学校すべてでプールを廃止し、水泳の授業自体を止めてしまいましたが、須坂市では水泳授業を継続していく考えです。
11	水泳授業は子どもにとって必要な「学力」の一つです。プールの修繕・維持・管理を児童一人当たりの費用対効果で考えるのではなく、いち学校の必要な設備として考えるべきではないでしょうか。	
12	子供にとっては自校プールが必要なのではないのでしょうか	
13	学校自体にプールを無くしてしまう学校も出始めましたが無くさないでほしい	
14	費用についても疑問があり、今年行われる工事予算は「提言書」の工事費の20%余りを上回り、また、民間施設の利用料も不変では無いのではないのでしょうか。	
		物価の上昇はありますので、直近の実績から経費を導き出して判断するのが現実的と考えます。

番号	意見	考え方・対応
15	移動して他校のプールに入るのもかなりの負担だと思うので地域の方の協力を得ながら修繕しつつ自校で行えるのがベストかと考えます	学校のプールは規模が大きく、防水工事には専門の業者による施工が必要です。ろ過機については設備の更新が必要ですので、地域の方の協力については限定的となります。児童生徒が減っていく中で、定期的で大規模な改修が必要となるプール施設を、どういう状況になるまで維持していくのか、という判断基準を示しました。
16	壊れるまでは自学校プール利用、壊れたら単純に修繕費用と委託費用の比較で判断としていますが、双方のメリット、デメリットを勘案した、子供たちにとって必要なプール授業のランドデザイン的な計画に基づいた判断も必要だと思います。	方針案の「これからの水泳学習の姿」と「水泳授業と水泳指導について」の項目で、子ども達にとって必要なプール授業のランドデザインを示しました。効果の評価・分析等については小中学校プールのあり方検討会議で議論しました。
17	壊れる前でも建築年数、地区、生徒数による学校のグルーピングにより、効果を評価・分析しながら判断していく必要があるのではないのでしょうか。	
18	あまりにも事後対応的、保守的な判断基準となっており、プール授業をこれからの子供たちのためにどうするべきかといった視点での判断基準となっていないことに、失望感を覚えます。	

(2) 自校プールを廃止して校外プール施設を活用する場合の留意事項

①授業時間と熱中症対策

校外プール施設を活用する際、移動時間の影響を抑えるために、水泳授業の2時限分を連続して行うこととします。ただし、児童生徒の疲労や熱中症対策には十分気を付けることとし、特に、猛暑日が続く7月の水泳授業については、屋内プール施設を活用することを検討します。

番号	意見	考え方・対応
1	引率職員の確保、移動時間、人数、水泳活動時間、休憩。具体的に案を考える必要があると思う。暑い中の移動、入泳、入水で子ども達の負担が大きく、疲れ、熱中症につながると思う。活動前後の水分補給も心配。	児童生徒数や学校の位置により状況が変わりますので、方針の中で具体的な案を示す必要は無いと考えます。熱中症の対策については「須坂市立小・中・支援学校における熱中症対策ガイドライン」に基づいて行いますので、その旨を方針に加えたいと思います。
2	児童生徒の疲労や熱中症対策には十分気を付けるとは、具体的にどう気を付けるのでしょうか	

番号	意見	考え方・対応
3	移動に無駄な時間を使うことになる。	2授業時間といっても、実質的な水泳時間は25分+休憩+25分の実質約1時間弱です。校外プールを活用している他自治体の学校でも同様に、特に問題があるとは聞いていません。また、小学校の水泳授業で、休みなく泳ぎ続けることはありません。児童の体調は毎日確認し、体調の悪い児童を無理に泳がせることもありません。
4	2時間続きの水泳指導は、子どもにとって負担になる。	
5	2時限分を連続して行うこととしますとなっておりますが、2時限連続での水泳授業は、小学生の体力的に身体に問題はないのか検証されたのでしょうか。	
6	天候等による計画の変更が困難。	
7	学校プールだからこそ子どもに合った水位に調節出来ると思う。施設プールは子ども仕様の水位や環境にしてもらえるのか？心配。	
8	他の市などでは室内プールを使うということも聞いたことがあります。水泳のできる期間も長くなりますし、講師の方もいっしょに活用できたらいいなと思います。熱中症の危険も減ります。	屋外プールの場合は、予備日を予め用意することを方針に加えたいと思います。 校外プールを活用する場合は、学年に見合った環境を整えることを方針に加えたいと思います。 屋内プールでは、年間を通して水温と室温を調整していますので、暑い時期に熱中症の危険が増大するということはありません。雨や、強い日差しも遮りますので、天気に左右されずに、インストラクターの指導の下で快適に水泳授業ができると考えています。
9	すでに民間の室内プールを利用している学校の例を聞くと、暑い時期は室内プールも蒸し暑く、熱中症の危険が増大する。	
10	ながでんスイミングスクールとの提携は可能か。	
11	屋内プール施設活用についても、6月の寒い日も活用予定なのでしょうか。	

②学校間交流

他校のプールを活用する場合は、協力してプールを清掃したり、共に水遊びをしたりするなど、交流の機会が得られるよう検討することとします。

番号	意見	考え方・対応
1	無し	—

③児童生徒・保護者への説明

校外プール施設の活用について、児童生徒や保護者に事前に説明することとします。

番号	意見	考え方・対応
1	無し	—

④校外プール施設への移動費用

学校から校外プール施設への移動費は公費負担とします。

番号	意見	考え方・対応
1	課題は学校からサマーランド・スイミングスクールへ行く時は路線バス用のバスで子供たち・先生方を乗せて往復乗車、運賃は予算化していただく。	移動費は公費負担とします。

自校プールを廃止して校外プール施設を活用する場合の留意事項全体について

番号	意見	考え方・対応
1	「着衣泳など命を守る教育」が実施できない。	着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については、着衣泳だけでなく、ペットボトルなどの身近な物を使って浮力を得る体験など、様々な方法がありますので、施設管理者と相談して取り扱います。

方針（案）前文について

番号	意見	考え方・対応
1	「課題」学習指導要領の該当部分を記載してほしい。	小学校については、 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_010.pdf 中学校については、 https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_kyoiku01-100002608_1.pdf をご覧ください。
2	水着以外を着用する生徒、ゴーグルを使用する生徒、スイミングスクールに通う生徒の人数・比率を明らかにしてほしい。	該当する児童生徒の人数調査はしていません。
3	プール老朽化の実態（各校プールの建設年、保修履歴）を明らかにしてほしい。	「須坂市小中学校のプールのあり方についての提言書」の中でまとめて公表していますのでご覧ください。

番号	意見	考え方・対応
4	教職員の負担の実態（プールの清掃、管理）を、明らかにしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳授業開始前のプール施設の点検・修理・清掃 ・水道水の注入と水質管理のための薬剤の用意 ・毎日の水質、水温、気温の点検 ・低学年児童に対する着替え指導 ・水泳授業中の安全確認と、体調不良やケガ等の事故発生時の対応 等

方針（案）全体について

番号	意見	考え方・対応
1	提言について、基本的に賛成である。 ・指導要領での水泳学習についての内容や費用対効果を考えると提言の方向で良い。 ・市の小中学校の適正規模答申が出ている現状で、そのことも考慮しながら進めていく必要がある。	新しい学校においても、本方針の考え方は適用できると考えています。
2	教職員の減少で職員一人ひとりにかかる負担が増えているとの事。だからと言って子ども達への学習指導の考え方は軽くして欲しくない。子ども達のために職員のためにどういう形がいいのか、案をもとに現場の職員の声、教育委員会、市、保護者の声、を聞き検討して欲しい。	児童アンケート、教職員アンケート、保護者アンケートを実施したうえで昨年度に提言書がまとめられました。この方針案についても、保護者や教職員に周知しながら、広く市民の皆様にご意見をお聴きしています。
3	提言に同意します	ありがとうございます。
4	いずれ考えなければならない問題だとは感じておりました。一つ間違えば大きな事故に繋がる授業は先生のご負担がとても大きいと察します。加えて環境や児童生徒の気持ちの多様化も30年前とは違ってきており、まとめることにも壁があるかと思っています。	30年前の水泳授業のイメージと、現在の水泳授業の実態との差は大きいと思います。現在の水泳授業の実態に基づいて方針をまとめたいと考えています。

方針（案）以外について

番号	意見	考え方・対応
1	<p>豊丘小学校について、2021年のプール防水工事の見送りを、何故事前に説明しなかったのか。今後のプールのあり方について、とても重要な事にも関わらず、保護者を含めた議論をせず、何故、市が突然プール廃止を勝手に決めてしまったのか。</p>	<p>2020年度に小中学校のあり方についての議論がスタートしたことから、小中学校適正規模等の基本方針が決まるまでの間は、児童が安全に安心して学校生活を過ごせるよう配慮しつつ、小規模校である豊丘小学校への大規模投資を見送ることといたしました。この決定は、市の実施計画に関する決定ですので、公表はしていますが他の案件と同様に事前の説明はしていません。</p> <p>豊丘小学校のプールに関しては当時の学校長から、サマーランドなど、他の施設の利用が出来ないかといった要望が出されていまして、水泳授業の継続を大前提として、水泳授業の回数やその期間、豊丘小学校の児童数などを考慮しながら、プールの管理にかかる学校の負担、修繕に必要な費用、プール専用施設の利用、他校のプール施設の共用、を総合的に比較し、その結果、豊丘小学校プール施設を廃止し、他校のプール施設を活用することとしました。これに対し、豊丘小学校からは、児童が安全に安心して水泳授業を受けられ、プールに係る教員の負担の軽減にも繋がることから、歓迎の意見を得ています。また、学校から当時のPTA会長に報告したところ、同じく歓迎の意見をいただいています。豊丘小学校PTA評議員会にも学校が報告しましたが、反対のご意見は出されませんでした。</p> <p>その後、市議会との議論の中で、廃止をいったん保留し、学校プールのあり方に関する方針を検討することとしました。</p>
2	<p>豊丘小学校は、保護者説明会で出た意見や不安も解消されないまま、今年も校外プールになってしまっています。</p> <p>意見として出た次の点について、今年はどう対応される予定なのでしょう。</p> <p>・2時間連続の水泳授業の影響・水泳授業後の児童の疲労と体調不良での早退・暑い日、寒い日の対策・水泳が出来なかった日の2時限分の学校の対応・2時限分の授業の入れ替え等について現場の意見・体調不良の児童が出た場合の、養護教諭の配置問題</p>	<p>保護者説明会でいただいたご意見や質問に対して、その場で答えられる範囲でお答えし、ご意見に配慮する旨をお伝えしました。</p> <p>2時間連続の授業に対する児童の負担軽減については、屋内プールの活用や、養護教員が必ず同行する等の対応をしています。雨天時については予め代替日を設定して、水泳授業の回数を確保しています。</p>